

明日へ～子供たちの未来のために

子供達の未来のために何が出来るのか何をしなければならないのか 社会に出るための本当の教育

(11～13歳対象)
何の為に勉強するのか？生きる力ってどういう事？を理解すれば何事にも本気で取り組み始めます。
目的・ゴールを与えるのです。社会に出るとは何か？を伝えるのです。そして最も重要な考える力を幾つかのゲームで体感していきます。
未来を変える重要な分岐点に今、来ています。

(中1～大学生対象)

自分の未来を自分の事として真剣に悩み、考え始めなければいけない時期です。親、先生にお任せだった自分の未来について、そして自分について整理していきます

ここで“本気”的スイッチを入れられるか否かで未来が大きく変わります。幾つかの演習問題を通して『ものの見方・考え方』をしっかりと理解して貰います。自立への最終準備段階です。

発想の天才になろう!!

問題解決の基礎講座

子育て意識改革講座

(0～10歳の親御さん・保育士さん対象)

今後の学習能力、考える力等々いわゆる『生きる力』をどれだけものに出来るかを大きく左右する最も重要な時期だと考えます。親子で楽しく遊びながら考える力をつける幾つかのテクニックを紹介しながら、親にしか出来ない本当の教育と一緒に考えてていきます。

大手の半導体メーカーにて二十数年、その後技術コンサルタント会社を設立し約十年、製造業を中心にエンジニア育成と技術課題解決の支援を行ってきました。その中で、約450名の技術者と実課題解決を通して【結果を出す為の能力向上】に取り組んでまいりました。

人材育成のプロの一人として、企業人として、親として非常に危惧している事が、上記のテーマなのです。グローバル化とIT化で世の中が激変しております。同じく子供たちを取り巻く環境もいじめや不登校、引きこもり、自殺といった社会問題が示しているように様々なストレスとの戦いを強いられるようになっています。

【生きる力】ではなく【生き抜く力】を育てる具体的なプランを提案いたします。“親の力”がすべての基本となります。これ以外の方法は存在しません。

3つの重要ポイント

親の愛情

親子の各種取り組み

子供の自立する力

就学前の子育て・しつけ・土台作り

- いろんなことに興味を持つ。
- いろんなことにトライする。
- できることはさせる。
- 手伝いが当たり前の習慣。
- いっぱい話をさせる。
- 数の概念。
- イメージする力。
- 親子の遊びと楽しい時間。

12歳までが勝負

- 素直さが残るこの時期がタイミングリミット。
- 勉強の本当の意味。
- 世の中で求められる能力。
- 自分を好きになる。
- 自分に自信を持つ。
- 他人を理解する。
- 人と違う事に価値がある。

自立の最終準備

- 社会に出るとは？
- 生き抜く力。
- お金の話。
- “問題解決力”＝総合力。
- 自分の強み・武器。
- 自己責任。
- マインドセット
- ものの見かた考え方



(株)オフィスナガトモ

保育園・幼稚園・保護者会の方へ 子育て、しつけの意識改革講座を是非お試しください。

小学校に入ってから、思春期に入ってから、集中力がない、やる気が見られない言う事を聞かないといったところで手遅れなのかもしれません。探究心、学ぶ力を育てられるのは“親”なのです。子供の未来のために最も大切な時期だと思います。

幼稚園、保育園の保護者向けセミナーあるいは、PTA、保護者会の勉強会等に、この講座はご好評頂いております。時間・内容に関しては事前打ち合わせにて調整させて頂きます。

自信ないけど役立ちたい 日本の若者、自己評価低く

内閣府調査、7カ国で意識を比較

2014/5/26

日本の若者は自己評価が低く、将来を悲観している——。内閣府が世界7カ国の13~29歳の男女を対象に実施した意識調査結果で、こんな傾向が鮮明になった。一方、「自国の役に立ちたい」と考える若者の割合はトップだった。社会貢献したいのに自信が持てない日本の若者の姿が浮かび上がった。

調査結果は6月に閣議決定する子ども・若者白書に盛り込まれる。

2013年11~12月に日本、韓国、米国、英国、ドイツ、フランス、スウェーデンでインターネット調査を実施し、各千人程度から回答を得た。日本では1175人が回答した。

「自分自身に満足している」と答えたのは1位の米国が86.0%、6位の韓国でも71.5%だったが、日本は45.8%と著しく低かった。「自分には長所がある」と答えた割合も日本は68.9%で最下位。他国は93.1%（米国）～73.5%（スウェーデン）だった。

「自分の将来に希望を持っているか」と尋ねると、日本で肯定したのは61.6%。40歳になつたときに「幸せになっている」と思っている人は66.2%でいずれも最下位だった。

「自國のために役立つことをしたい」若者は、日本が54.5%で1位。特に10代後半から20代前半が多かった。一方で「自分の参加で社会現象が少し変えられるかもしれない」と前向きに考える日本の若者は30.2%と他国より低かった。

日本の若者に自國で誇れるものを複数回答で尋ねたところ、治安の良さ（57.2%）が最も多く、歴史や文化遺産（52.6%）、文化や芸術（41.2%）と続いた。

内閣府は「若者の自己肯定感を育むため、家庭・学校・地域が一体となって子どもや若者を見守り支える環境づくりを進めるべきだ。役に立ちたい若者には、具体的な社会参加に関する教育も必要」と分析している。〔共同〕

<http://office-nagatomo.co.jp/>

株式会社オフィスナガトモ

企画室 太田 泰晴

info@office-nagatomo.co.jp

〒889-1406 宮崎県児湯郡新富町大字新田5744番地1

TEL:0983-33-1105 FAX:0983-33-0393

オフィスナガトモ

検索

